

自然と文化科 活動記録 (共通講座)

日時	2024年12月6日(金) 10:00~12:00	担当者
場所	福島区民センター・ホール : 午前 共通講座 : 午後 班別活動 1班、2班、4班 文化祭見学 3班 まほうびん記念館見学	文 : 川井むつ子 写真 : 玉尾 洋一
備考	参加者数 1班 19名 2班 17名 3班 18名 4班 17名	合計 71名

- 講演のテーマ:「源氏物語に登場する植物」~その3~
- 講演者名: 京都府立植物園名誉園長・京都府立大学客員教授 松谷 茂先生

<はじめに>

源氏物語には110種(万葉集160種は多くの人で詠まれている)を超える植物が登場する。木竹類約50種類、草本類約60種類、これらの中にはシダ類や熱帯植物も含まれる。今から1000年も前に紫式部は身近にある植物の変化してゆく過程、フェノロジー(植物季節学)を実感し植物がゆっくり動きゆく姿を長い時間軸の上に置いてじっくりと見続けていたと思う。四季があり植生の豊かな日本だからこそ多くの植物を登場させることが出来た。生まれつきの豊かな感性に磨きをかけ、鋭い観察力で日本の植物史(誌)上からも貴重な長編物語を抒情的に書き上げた紫式部は超天才である。

<源氏物語に登場する植物>

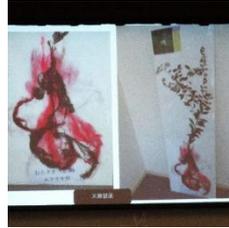
- ① 松、明石の君と姫君(母娘)の生き別れの悲しい場面(嵐山)「二葉の松」はアカマツ
 - ② 桜、源氏物語の花は桜、若紫に一目ぼれを予感させる花、幻の「樺桜」はオオヤマザクラ?
 - ③ 柳、枝垂れない(楊)のはアカメヤナギ ④ 紫、源氏最愛の女性「紫の上」花の色は白(根は紫根染めの素)
 - ⑤ 橘、ホトトギの鳴き声と橘はセットで詠まれる ⑥ 梅、梅の立枝に花が咲く 32帖「梅が枝」 43帖「紅梅」
 - ⑦ 紅花、姫君・末摘花(女性が女性の容姿をここまで書くのか)
 - ⑧ 山吹、この時代に八重山吹を見ていた 24帖「胡蝶」 28帖「野分」紫式部は「玉鬘」の姿を思い描いた
 - ⑨ 撫子 ⑩ 夕顔、夢い花・ユウガオ(ウリ科)、ヨルガオ(ヒルガオ科)ではない!
 - ⑪ 菊、最愛の女性を失った悲しみのどん底の状態で詠った「諸共におきぬし菊の朝露もひとり袂にかかる秋かな」(41帖「幻」)
 - ⑫ 宿木、ヤドリギ(ビャクダン科)ではなく、紅葉するナツツタ(ブドウ科)である
 - ⑬ 藤袴 ⑭ 榊 ⑮ 女郎花、秋の花として菊(20回登場)に次いで多い女郎花(17回登場)
 - ⑯ 吾木香 ⑰ 栗 ⑱ 山橘(藪柑子)
 - ⑲ 蓬・葎、手が入らず荒れ果てた庭(王朝社会の陰の真実も記述)も抒情的に登場させた
 - ⑳ 桔梗
- その他に、フタバアオイ、ハス、ヒカゲノカズラ、など



松谷教授



② 桜



④ 紫



⑤ 橘 文化勲章



⑥ 梅

<所感>

源氏物語が後世まで読み継がれているのは、単なる恋愛物語でない宮中のスキャンダル、ゴシップ、タブーなど複雑な人間模様と植物史上にも貴重な長編物語だと知ることが出来た。

「図解、眠れなくなるほど面白い源氏物語(日本文芸社)」の「人物の関連図」で、複雑な人間模様を理解し植物を念頭に置いて読むのも面白い。